



## 酷暑の夏 市民動く

# 平和と暮らし 食と農 気候変動、開発・街づくり

日本共産党

原水爆禁止国民平和大行進2024が酷暑の中で市内を行進。取手駅西口再開発と図書館等公共施設整備計画をめぐる議会請願。生産者と消費者の共同で「食と農を考えると未来プロジェクト」発足の交流イベント。暮らしに身近な環境から危機迫る平和と地球温暖化などをテーマに開かれた茨城県母親大会。無駄なダム建設で水あまりの解消へ県民負担増計画の「1県1水道」の見直しを求めて県交渉。この夏、取手の市民・市民団体は活発に活動しています。

### 「請願」して 感じたこと、考えたこと

「駅前開発を考える会」 遠藤俊夫

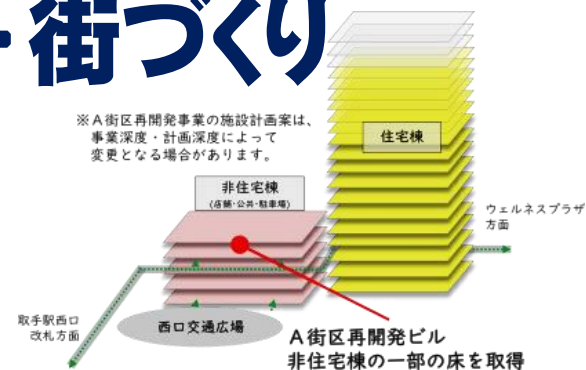
請願権とは、国や地方公共団体の機関に対して、その職務に関する事項についての希望・苦情・要請を申し立てる、憲法第16条で認められた権利です。

私たちはこれまでも取手市議会へいくつもの請願をしてきましたが、今回は議会だけではなく、図書館の移転問題でもあるので、図書館を所管する「教育委員会」にも取手市教育委員会会議規則第10条（請願）の規定に基づき、計画の見直しを求め請願しました。

教育委員会への請願には、議会と違って、「紹介議員」は不要なので、もっと気軽に請願することができるので皆さんにお勧めします。

結果は、議会・教育委員会いずれも「不採択」でした。これまでも何度も経験しているので、「不採択」には驚きませんが、請願に込めた「希望・苦情・要請」に対して、議会・教育委員会が全く不誠実であるばかりか、その見識の欠如にあきれるばかりでした。

（次回に続く）



民間の再開発事業に含まれる「図書館等複合公共施設整備計画」、既存の「取手図書館廃止」についての市広報（3月15日付）の発表は、市民にとって寝耳に水、教育委員会、図書館関係者での検討もないトップダウンの計画に批判

が広がりました。急遽発足し、請願など市民運動に立ち上がった「取手駅前開発を考える会」代表の遠藤俊夫さんの投稿を頂き、「取手駅前開発と図書館を考える」シリーズを本号より掲載します。

## 取手駅前開発と 図書館を考える

シリーズ①

### 食と農で市民が交流！

－ 食と農を考えると未来プロジェクト －  
代表 根本和彦

「この地域で食と農について考え、語ろう」と呼びかけ、6月29日、交流イベントを開催しました。県南農民組合が「農業の先細りを何とかしよう」と呼びかけたのがきっかけですが、「食料危機」は国連も警告しています。食料は命を支える源。準備会で協議を重ねるなか、「食料や農業」は生産者だけでなく、消費者など市民ぐるみで、地域で考える必要があるとの結論で、今回の結成、イベントの開催となりました。

準備会では、多くの人に集ってもらおう、と多方面にはたらきかけ、結果、行政やJAなどを含め、「半分くらいは知らない顔」の参加者がありました。

記念講演は、農民連の岡崎事務局次長、パネラーは農業委員会倉持会長、聖徳女子高校のみなさん、新婦人森さん、新規就農めざす根本さんなど多彩でした。

赤旗や農民新聞（1面）でも取り上げられました。スタートは上々。今後の活動を、みんなで考えます。ご支援ください。



未来プロジェクトで報告する根本和彦さん  
＝ 6月29日、取手福祉会館

### 地球温暖化ストップ 気候と平和の危機打開を

取手母親大会実行委員会 森 恵美子 茨城県母親大会開く

第63回 茨城県母親大会が、7月7日日立市で開かれ県内各地から442人が参加し、取手からもバスで多数参加しました。

午前中の分科会では、食と農、気候危機、原発、環境、医療など7つのテーマで話し合い学びました。

午後の記念講演では、武本匡弘さん（プロダイバー・環境活動家）が、「海の中から地球が見える」と題して講演。美しいサンゴの海が20年で瓦礫化した実態を示し、その原因が、地球温暖化、海洋プラスチック問題だけではない。沖縄辺野古の基地建設のための土砂

投入なども原因になっていることを示し、「気候危機も平和の危機も同じ。生活者として社会を変える自覚を持とう」と力説し、参加者の感動を呼びました。

「集まり、話し合えば元気」の母親大会になりました。



県内各地からの参加者が  
アピール7日、日立市  
（しんぶん赤旗より）



# 原水爆禁止 国民平和 大行進 2024

2024年原水爆禁止国民平和行進(北海道～東京コース)  
取手実行委員会

## 核なき世界めざして 平和行進取手に

### 唯一の被爆国日本 政府は禁止条約に批准せよ

原水爆禁止国民平和行進 2024 は、日本列島最北端の北海道礼文島を 5 月 6 日にスタートしました。

7 月 8 日には、取手市内へつづくばみらい～守谷を経て、行進団は、取手市役所前福祉交流センターに午後 3 時過ぎ到着。駆けつけた市民と、伊藤哲副市長、石塚康英教育長はじめ多くの職員が迎える中で集会が行われました。

主催者代表挨拶で渡辺昭



行進に参加する人々  
＝ 8 日、取手市役所前



前列左から本田・遠山・加増市議  
＝ 8 日、取手福祉交流センター

七さんは、「3 年前発効の核兵器禁止条約に署名・批准国は 163 か国に広がる一方、唯一被爆国日本政府が未だ署名もしていない」と政府を批判。批准を求めました。

副市長は、市長のメッセージを代読し挨拶。教育長は、平和教育の大切さを話し、それぞれ参加者をねぎらいました。

集会後、酷暑の中取手駅西口前まで行進、終わりの集会で共産党本田市議が連帯の挨拶を行いました。

## 沖縄 米兵の性暴力事件隠ぺい 政権の政治的思惑ありあり

米兵による相次ぐ性犯罪と隠ぺいに対し、県民の怒りが広がっています。事件への政府の対応に、政治的思惑による隠ぺいの疑念があることが指摘されています。

2023 年以降で 5 件の米兵による性的暴行事件が県に通報されていませんでした。昨年 12 月に米軍辺野古新基地建設の「代執行強行」、今年 4 月に日米首脳会談、5 月に駐日米

大使の沖縄訪問、6 月の県議選と重要な政治日程が続きました。日米同盟強化と新基地建設強硬、そのための県議選での自民党など県政野党の勝利のため、事件を隠ぺいし県民の怒りの表面化を回避しようとした、との見方が強まっています。「プライバシー」のためなどの政府の言い逃れは許されず、沖縄各地で抗議行動が広がっています。



米軍キャンプ・シュワブのフェンス沿いで  
手をつなぎ「人間の鎖」をつくる人たち  
＝ 6 日午前、沖縄県名護市辺野古  
(KYODONEWS)

「茨城県の水問題を考える市民連絡会」は 7 月 9 日、県庁で交渉しました。

これまで茨城県は実態を無視した人口想定（420 万人）を基に国と共に過大な水源開発を推し進めてきました。しかし県人口は 297 万人をピークに減少を続け、水道水は膨大な水余りに。当初予定から 30 年遅れで工事が続く霞ヶ浦導水事業。水源開発の負担は水を使わなくても利用者（県民）に重くのしかかります。



県担当者(手前)に水道料金引き上げにもつながる県水道計画の見直しを求める連絡会の人々。  
前列右側から本田市議、関戸氏＝ 9 日、県庁内

## 無駄な導水事業中止し 自己水源守れ

県は、北部地域など地下水や川の水で水道事業を行っている行政に、自己水源を放棄させ、余っている県水を使わせる方針（新水道ビジョン）です。

能登半島地震では水道施設も深刻な被害を受け、新潟県では広い地域で液状化が発生しました。茨城県は地震が多く、県南地域は震度 7 クラスの直下型地震の震源域です。広域に水道管をはりめぐらせる県の新しい施策は、災害時に広範囲で断水の危険があります。ムダな導水事業中止、地下水など自己水源を守るよう求めました。県は危機管理などの質問に答えられませんでした。

今回の交渉は茨城共同運動の取り組みで行われ、水問題連絡会の関戸勇事務局長、山中泰子幹事、本田かずなり取手市議など 5 名も参加しました。

## 茨城県の水道一本化（一県一水道）見直し求め 茨城共同運動・茨城の水問題連絡会が県交渉

### <ご案内>

戦争させない・9 条壊すな！ 総がかり取手行動パート 63

学習集会：「パレスチナ・ガザはいま」

岡 真理さん（早稲田大学教授）の講演（2023.12.10 沖縄にて）録画を鑑賞します！

7 月 27 日（土）PM1:30～ 藤代公民館第 3 会議室 資料代 300 円

主催：総がかり取手行動実行委員会

連絡先：根本和彦 090-6471-7090